

福島広報

発行 福島地区小学校長会
責任者 会長 柏谷 智也
編集 同 広 報 部



【巻 頭 言】

教科名に込められた意味を考える

福島地区小学校長会 会長 柏谷 智也

先日、次期学習指導要領において、小学校の教科名である「算数」を、中学校・高等学校と同じ「数学」に統一する案が、中教審のワーキンググループで検討されているという新聞記事を目にしました。小学校の「算数」という名称は、児童が数量や図形を身近な生活と結び付けて学びやすいよう配慮されたものであり、発達段階に即した教科名であると捉えています。一方で、事象を論理的に捉え、筋道立てて考え、その考えを表現する力など、学習内容の本質は中学校「数学」と共通しています。そう考えると、今回の教科名変更の議論は、学習内容を難しくすることが目的ではなく、「数学的に考える力」を早い段階から育成し、学びの連続性をより明確にしようとする意図によるものだと理解できます。

この記事に触れ、学習指導要領が改訂されるたびに、教科名の変更や授業時数の削減、さらには教科そのものの存在意義まで議論される社会科について、「今回は大丈夫だろうか」と、ふと心配にもなりました。

ご存じのとおり、社会科は地理・歴史・政治や経済といった学問分野を基礎としていますが、それらを分野別に学ぶ教科ではありません。小学校社会科の最大の特徴は、「自分と人、物、地域社会との関わり」を出発点として、社会の仕組みや働きを総合的に学ぶ点にあります。

例えば、地域の商店や工場、公共施設の見学、地域で働く人々への聞き取りなど、身近な社会を直接体験する学習が重視されます。こうした活動を通して、子どもたちは自分の生活が多くの人の努力や工夫によって支えられていることに気づき、社会を自分事として捉えるようになります。社会科は、知識を覚えるだけの教科ではなく、人との関わりや体験を通して、社会の成り立ちや大切さを理解し、よりよい社会を考える力や態度を育てる教科なのです。

だからこそ私は、小学校社会科の特質を最大限に生かすため、見学や体験を重視した学習展開を大切にしたいと考え、研究を重ねてきました。実際に見て、聞いて、感じ、考え、話し合う学びは、理解を深めるだけでなく、他者を尊重する心や、主体的に社会に関わろうとする意欲を育てます。そのように考えると、小学校の教科としては「社会科」という名称が最もふさわしく、現代社会においてこそ、より重要視されるべき教科ではないかと感じています。

教科名や学び方をめぐる議論は、子どもたちの成長をどのように支えるのかという、本質的な問いにつながっています。各教科の特質を踏まえ、その教科名に込められた意味を正しく理解する視点をもつことも、児童の発達段階に応じたより豊かな学びを実現する上で重要であると、今回の新聞記事を通して改めて考えました。



思いをつないで

福島市立月輪小学校長 佐藤 倫子

本職に就くことが新聞発表された日に、私が小学校1・2年生の時の担任の先生から実家に電話がかかってきました。自信のない私を、あきらめずに信じて、褒めて、伸ばしてくださった先生です。その数日後に、私も電話で話をすることができました。「よくがんばったね。」と、また褒めていただきました。改めて、たくさんの方々に育てていただいていることに気がきました。教員になってからも、たくさんの先生方に出会い、熱い思いを注いでいただきました。

今、通学路を歩くと、たくさんの地域や保護者の方々、そして月輪っ子の思いに触れることができます。恩師、先輩、月輪の子どもたちや先生方、地域、保護者のみなさんの思いをつなぎながら、共に育つことができるわくわくにこの学校づくりを進めてまいります。先輩方、御指導よろしく願いいたします。



感謝を胸に、新たな一歩を

福島市立佐倉小学校長 上遠野 正

このたび、石川町立石川小学校より転入し、福島市立佐倉小学校長を拝命いたしました。校長としての重責を担うこととなり、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

福島市で勤務するのは、30年ぶりとなります。教員として歩み始めた頃の思い出がよみがえり、懐かしさとともに、再び福島の教育に携わることができる喜びを感じております。一方で、時代の変化とともに学校を取り巻く環境も大きく変わっており、新たな気持ちで職責を果たしていきたいと考えております。

これまでの教職人生は多くの方々との出会いに支えられてきました。温かくご指導くださった諸先輩方、ともに教育実践に励んだ同僚の先生方、学校を支えてくださった保護者や地域の皆様に心より感謝申し上げます。

これまで築かれてきた伝統を大切に受け継ぎながら、子どもたち一人一人が安心して学び、頑張りがいのある学校、地域とともにある学校づくりに努めてまいります。福島地区校長会の一員としても、多くの先生方から学びをいただきながら、本市教育のさらなる充実と発展に微力ながら貢献してまいりたいと思います。今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



信じること

福島市立佐原小学校 吉田 貴史

本校は、鼓笛パレードに全校生で参加します。「1年生はボンボンかな」と思いきや、なんと担当するのはキーボード。それも両手弾きです。「無理はないだろうか」「負担になっていないか」と心配になり担当教員に尋ねてみると、その教員は迷いなくこう答えました。「本人が『やりたい』と言ったので、みんなサポートしていきますから、大丈夫だと思います」

その教員の膝は、ほこりで白く汚れていました。子どもの目の高さまでしゃがみ込み、丁寧に教えていたのでしょう。子どもの可能性を「信じる」ことで力を引き出し、心から信じられるようになるまでとことん寄り添う。そんな関わりができる本校の教職員を、私は心から誇りに思いました。

本番当日、子どもたちは、気持ちのこもった演奏で、地域の皆様にたくさんの笑顔をお届けしてくれました。これからも、子どもたちの充実した笑顔、そして「できた!」という達成感あふれる笑顔の輪を地域全体へと広げていきたいと考えております。そのような学校運営ができるよう、福島地区校長会の先輩方のご指導を仰ぎながら、邁進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



子どもたちにわくわく感を

福島市立湯野小学校 鳴原 啓美

給食にスイカが出た日のことです。配膳の時間になっても、なかなか準備ができずに教室の中をうろうろしていた子どもがいました。「スイカの種をまくと芽が出てくるんだって」という言葉を聞くやいなや、床に落ちていたスイカの種を見つけ、そっと拾って大事そうにティッシュに包みました。本当に芽が出てくるのかな?というわくわく感で頭の中はいっぱいだったので。指示をしてもなかなか

ぐに行動できない子どもたちが増えている学校現場ですが、どうなるのかな?やってみたいな?というわくわく感があれば、子どもは動き出すはず。簡単なようで、実はこれが一番難しいことなのかもしれません。子どもたちが自然と動き出し「わかった」「できた」を実感できるような授業づくりを目指し、教職員一丸となって頑張りたいと思います。毎日登校してくる子どもたちが、笑顔で充実した学校生活を送ることができるよう、私自身も笑顔で子どもたちや教職員と向き合い、学校経営をしようと自分に言い聞かせています。子どもの笑顔を思い浮かべながら、湯野のおいしい果物を食べ、足湯でホッと心を癒やせる日が早く来ることを願っています。福島地区校長会の皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



千年の時の流れに思いを馳せて 福島市立平田小学校長 梅津 隆弘

本校に着任して以来、校区を巡る中、その道々で田園の向こうに連なるなだらかな丘陵と、その裾にたたずむ集落の風景に魅了されています。四季の移ろいを映し出し、ふるさとの原風景を感じさせる里山の景観が美しいこの地は、奈良時代の信夫郡小倉郷の有力な比定地とされ、江戸時代の小倉村・山田村を経て現在へと続く長い歴史を有しています。千年以上にわたり人々の暮らしが営まれ、その時代時代に子どもたちが地域の確かな人材として生まれてきたことを思うと、身の引き締まる思いがします。学校は子どもたちの未来を創る場であると同時に、地域の歴史や文化、そしてこの地に住む人々の思いや願いを次代へつなぐ場でもありと考えます。この豊かな自然と歴史の下、本校だからできる・本校でしかできない学びを創ると共に、子どもたちにはここで学ぶことに誇りをもち、自らの可能性を伸ばしてほしいと願っています。

小倉郷から続く時の流れに思いを馳せながら、地域・保護者の皆様、教職員と力を合わせ、子どもたちの健やかな成長を支えるとともに、ここで学んでよかったと思える学校づくりに努めてまいります。福島地区校長会の皆様には、今後ともご指導・ご支援のほどよろしくお願いたします。



『子どもたちの笑顔を守るために』 福島市立平石小学校 菅野 桃子

この度、6年前にもお世話になりました福島地区並びに信夫中学校区に校長として赴任できましたこと、とてもうれしく思っております。また、19名の素直で純朴な子どもたち、熱心でよく働く教職員、助け合い協力する保護者、おらが学校を支える地域、全てが最高の平石地区で学校経営ができることにこの上ない幸せをかみしめながら日々を過ごしており、感謝の気持ちでいっぱいです。教育目標である「安心の笑顔あふれる 平石小学校」にするために全教職員で全校児童を見守り育てていくのはもちろんのこと、子どもたちが「今日も楽しみだなあ」という気持ちで登校し、「今日も楽しかったなあ」という気持ちで下校していけるよう校長として何ができるかを考え行動していきたいと考えています。これからも平石小学校の子どもたちの笑顔が毎日見られるように、さらには、笑顔の輪が地域全体に広がることを目指して、教職員一丸となって教育活動を行ってまいります。以前とはシステムが大幅に変わり、情報量・業務量も増え、県全体に関わる仕事を担うなど、力不足のため、まだまだ慣れない部分が多々ありますので、地区の校長先生方に支えていただきながら頑張っていきたいと思っております。ご指導・ご支援のほどよろしくお願いたします。



笑顔あふれる学校を目指して 福島市立野田小学校長 青柳 俊宏

この度の人事異動により、桑折町立伊達崎小学校より参りました。前任校は、全校児童数87名という、家族のような温かさに包まれた小規模校でした。野田小学校に着任し、全校生643名という圧倒的なエネルギーに触れ、身の引き締まる思いであります。私にとって、これほど大規模な学校での経営は未知の領域であり、大きな挑戦でもあります。

組織の動かし方や、地域・保護者の皆様との連携の在り方など、小規模校とは異なるアプローチが求められると覚悟しております。地域の皆様、そして経験豊富な校長先生方、教育関係者の皆様には、大規模校ならではの運営の妙や、この活力を生かす秘訣をご教示いただけますと幸いです。

不慣れな点も多々あるかと存じますが、皆様のご指導を仰ぎながら、一日も早くこの新しい環境に慣れ、子どもたちの笑顔あふれる学校づくりのため、全力を尽くす所存です。今後ともご指導・ご支援のほどよろしくお願いたします。



吾妻の山々の下で 福島市立庭坂小学校 伊東 恭一

初めて赴任する県北、庭坂の地での出会いをとっても楽しみに赴任いたしました。

本校を訪れてまず目を奪われたのは、吾妻小富士を始めとした吾妻の山々の雄姿です。春に残雪が「種まきうさぎ」を描き出す頃、この地の皆さんが一斉に農作業に精を出す姿から、福島原風景を感じることができました。さらに、庭坂の地は、梨や桃、リンゴなどの多くの果実を栽培する「フルーツライン」のエリアです。沿道にあるたくさんの果実の樹は、花々を咲かせて訪れる人を楽しませ、さらに、農家の方々が丹精込めて実らせた果実が多くの人を笑顔にしてくれます。

かつて米沢街道の宿場町「庭坂宿」として栄え、人々の往来と文化の結節点であったこの地には、新しい風を受け入れつつ伝統を大切に守る、質実剛健な気風が息づいており、地域の方々は、宝である子どもたちを温かく、大切に見守って下さっています。わたくしも、福島地区校長会の一員として、この豊かな自然と温かな教育力に包まれた庭坂の地で、「ふるさとへの誇り 夢とあこがれ 心かがやく ふくしまっ子」の育成に向けて誠心誠意、学校経営に邁進する所存です。今後とも御指導・御鞭撻を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

鹿児島でもう一度

福島市立吉井田小学校長 下重 祐三

なかなか叶うことのできない望みのため、最近よく思い出すことがあります。それは平成28年4月から3年間県外派遣交流で勤務した鹿児島県での教員生活です。

鹿児島県のことは、「桜島、桜島大根、芋焼酎、西郷隆盛、薩長連合、會津藩の敵」程度の情報で、本当に教員としてやっていけるのだろうか、と不安しかありませんでした。しかし、行く前から日置市立伊集院小学校の先生方にアパートや家具の手配などいろいろお世話になり、安心して異動したことを今でも覚えています。

勤務先の伊集院小学校は歴史と伝統のある850人を超えるマンモス校でしたが、勉強の得意な子苦手な子、運動が好きの子嫌いな子と、福島と変わりませんでした。仕事面では、いろいろ違ったことはありましたが、伊集院小の先生方に教えていただき、楽しく勤務できました。住んでいた日置市伊集院では福島では体験できないことをさせていただきました。その3年間で「桜島にフェリーで行く時に藪金のうどんを食べること、醤油は甘いこと、鳥刺しがとても美味しいこと、芋焼酎だけ飲んでいないこと、県民は桜島と西郷さんが大好きなこと、桜島が噴火しても驚かないこと、福島県（會津藩）を嫌っていないこと、etc.」鹿児島の知識が増えました。

家族と離れ寂しい思いもありましたが、あつという間の3年間でした。そして、貴重な体験をすることができた、「人生の宝」となりました。「叶うことなら、もう一度鹿児島の地で教鞭を！！」と思う今日この頃です。

「憧れ」

福島市立立子山小学校 氏家 博行

半世紀ほどの人生を振り返ってみると、私の傍らにはいつも「憧れ」の存在があった。

幼少期の仮面ライダー（写真の私はすべて変身ポーズだ）に始まり、下学年は『サイボーグ009』の島村ジョーになりきって「加速装置」と叫んだ。上学年になれば『キャプテン翼』に夢中になり、「ドライブシュート&オーバーヘッドキック」を猛特訓したものだ。その後も、中学校の部活動の先輩、高校時代のマラドーナやラモス瑠偉、そして大学時代には、私を教職の道へと導いてくださった恩師へと「憧れ」は繋がっていく。

教員になってからは、子どもたちと楽しそうに授業を展開するカリスマ教師を追いかけ、管理職となった今は、組織を動かすサーバントリーダーを理想に掲げている。常に前を走る誰かがいたからこそ、私は一步一步を進んでこられた。

そんな折、大谷翔平選手の「憧れるのをやめましょう」という言葉に強い衝撃を受けた。勝利のために相手を超えるという、気高い決意の表れである。翻って、私はいつ「憧れ」をやめられるのだろうか。いや、やめる必要はないのかもしれない。私にとって「憧れ」とは、明日へのエネルギーそのものだからだ。これからは素敵な「憧れ」を胸に抱きながら、この先に出会う変化を楽しみ、歩みを進めていきたい。

第Ⅳ期研究スタート～校長の資質能力向上のために

福島市立笹谷小学校長 旗野 礼子

今年度より私たちは、「ふるさとに誇りをもち 多様な他者と協働しながら しなやかにたくましく未来を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」という新たな副主題のもと、第Ⅳ期研究をスタートいたしました。令和9年度の全国大会福島大会を見据えた、大切な一歩となります。

今年度、本支会は持続可能な研究を推進するため「選択支会」として、各分科会に分かれて研究を進めることとなりました。この副主題が目指す子どもの育成に向けて、私たち校長自身も時代を見通す視点を持ち、共に学校経営力を高め合っていくことが重要であると感じております。

そのための何よりの拠り所となるのが、私たちの福島支会です。日頃から方部長の校長先生方を中心に、課題や悩みを安心して相談し合える温かい協力体制が築かれていることは、本当に心強い限りです。

第1年次となる今年度は、8月18日の研究協議会に向けて実践を進めてまいります。校長先生方のこれまでの豊富な実践や貴重な知恵を結集し、教職員や保護者、その他関係機関等への具体的な関わり方に焦点を当てて分析を深め、これからの校長の役割を皆様と共に見出していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

ご執筆いただいた原稿を拝見すると、児童・教職員と正面から向き合いながら学校経営を推進していこうとする思いや教育に関する内なる熱き思い、ご自身の貴重なご経験談などがひしひしと伝わり、自身の学校経営を振り返らせてくれるすばらしい内容であることを実感いたします。ご多用の中、原稿執筆等作成にご協力いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

福島市立吉井田小学校長 下重 祐三
福島市立水保小学校長 渡邊 圭司